

「川口ぞうれっしや合唱団」来夏公演

平和願う歌声 四半世紀継ぐ

戦後、名古屋市動物園で生き残った象を見て、子どもたちが全国から列車を仕立ててやってきた……。そんな実話を元に、川口市の合唱団が四半世紀余り歌い継いできた合唱組曲「ぞうれっしやがやってきた」の練習が、今年も始まった。来年7月1日のさいたま市公演に向け、一緒に歌う仲間を募集している。

「川口ぞうれっしや合唱団」。1991年4月の初公演以来、2年に1回、そのつど各地から団員を募って練習し、公演してきた。14回目となる今回はさいたま市浦和区の埼玉会館大ホールで、県内外に暮らす2歳から80代までの約140人が参加を予定。夫婦、親子もいれば、3世代にわたる参



今月12日の初回の練習には、県内外から約80人が参加した＝川口市

年齢越え体験共有 参加者募る

加者もいる。11の組曲でつづられたストーリーは実話だ。太平洋戦争当時、爆撃でおりが壊れて動物が逃げ出したら危険という理由で、動物園の動物を殺すよう命令が下った。だが名古屋市東山動物園は園長らが抵抗し、4頭中2頭の象を守る。戦後、本物の象を見たいという各地の子どもたちの夢をかなえるため、東京や千葉などから名古屋へ「ぞうれっしや列車」が運行され、子どもたちが象の姿に励まされる。

元小学校教諭が絵本にし、愛知県の合唱団のメンバーらが合唱組曲へ仕立てた。場面に応じ、子どもだけが歌う時もある。大人と一緒に合唱もある。川口の合唱団創設時から代表を務める荒木紀理子さん(62)は「初めはそれほど長く続くとは思っていなかった」と振り返る。「声高ではないけれど、思想や信条、年齢や性別といった違いを越え、ただ平和への思いをつなぎ、互いにつながりたいという気持ちがあったからこそ」と思います。

世代を超えた参加者も少なくない。今月12日の初練習から、長女(5)を連れて参加した西山めぐみさん(34)は「子どものころ、両親と何度か合唱団に参加し、いつも心にこの歌があった。自分に子どもができたら同じ体験をさせたいと思っていたので、念願がなりました」と話す。

練習は毎月第2、第4日曜の午前中、JR蔵前近くの川口市教育研究所で。参加費は全部通して1家族まとめて8千円。子どもだけなら半額。経験は問わない。詳しくは荒木さん(048-2668-9256)へ電話(夜間のみ)。
 ・ファクス、ホームページ⇒<http://kawaguchizou.sakura.ne.jp>
 (斎藤智子)